

音楽部会

県研究主題

楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案1

提案者 山口 尋子 (県央地区)

<研究主題>

感性を働かせながら主体的に音楽を学ぶ喜びを味わう学習活動をめざして

～音楽鑑賞の指導の工夫と評価～

1 提案内容

能動的で創造的な音楽鑑賞を通して、子どもが主体的に音楽を学ぶ喜びを味わう学習活動をめざした5年生の授業実践。鑑賞のめあてを明確にもたせること、感じたことを自分なりに言葉や絵などで表現し、友達と意見交換することの2点を、学習指導と評価の工夫・改善の重点とした。

(1) 音楽と言葉 (第5学年)

① 題材の目標

- ・ 歌詞と旋律の結びつきを感じ取りながら、同じ詩をもとにつくられた二つの楽曲を味わって聴く。
- ・ 言葉のリズムや抑揚と結びついた旋律の流れに気を付けて、情景を思い浮かべながら鑑賞したり、歌い方を工夫したりする。

② 教材

〈鑑〉星とたんぼぼ 赤とんぼ 〈鑑〉山田耕筰の歌曲

③ 授業の実際

- 第1時 : 「星とたんぼぼ」の歌詞と旋律の結びつきを感じ取りながら、同じ詩をもとにつくられた2つの楽曲を味わって聴く。
- 第2・3時 : 「赤とんぼ」の歌詞の内容を理解し、情景を思い浮かべながら歌ったり、リコーダーを演奏したりする。山田耕筰について知る。
- 第4時(本時) : 「待ちぼうけ」の言葉のリズムや抑揚と結びついた旋律の流れに気を付けて、情景を思い浮かべながら鑑賞したり、歌ったりする。
- 第5・6時 : 山田耕筰の歌曲「待ちぼうけ」「ペチカ」「からたちの花」を鑑賞する。

(2) アンサンブルのみりよく (第5学年)

① 題材の目標

- ・ 声の種類を知り、さまざまな形態による合唱の響きを感じ取って聴く。
- ・ 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫して合唱を楽しむ。
- ・ 楽器の音色を捉え、音の重なりや響きを味わいながら、表現したり鑑賞したりする。

② 教材

〈鑑〉いろいろな合唱 ハロー・シャイニングブルー 星笛

〈鑑〉組曲「カレリア」から「行進曲風に」

③ 授業の実際

- 第1時(本時) : 声の種類を知り、女声合唱や男声4部合唱などさまざまな形態による合唱の響きを感じ取って聴く。
- 第2時 : 混声合唱と児童合唱を聴き比べて、それぞれの音色を味わう。

2 協議内容

鑑賞の指導、言語活動の充実について

(1) 鑑賞指導の工夫について

- ・ 曲を聴く前に、歌詞を読みこむことが大切。歌詞のおもしろいところや好きなところを子どもたちに聞きながら「どんな曲がついているのかな。」「ゆったりした曲？忙しそうな曲？」などと予想させて、曲のイメージを膨らませていく。
- ・ 山田耕筰は、言葉のイントネーションを大切に作曲をしている。そのような作曲者の意図を教師から子どもに伝えることで、より深く味わえるのではないかな。

(2) 子どもが感じ取ったことを表現する手立てについて

- ・ 言葉や文だけでなく、絵や色でも表現できるワークシートを用意した。
- ・ 子どもが聴き取ったこと（知覚）と感じ取ったこと（感受）を教師が整理し、どのような要素がそのように感じさせているかを結び付けて子どもに示していくことが大切である。
- ・ 鑑賞して感じたことを隣の席の友達と話し合う。その後、自分や友達の意見をクラス全員に紹介する場を設けることで、感想の共有化を図った。
- ・ 曲に合わせて指揮をさせたり、体を使って曲のイメージを表したりと、体を動かす活動を取り入れる。

3 まとめ

(1) 言語活動について

- ・ 音楽科では、発言・記述・意見交換を中心としながら、音を出したり体を動かしたり、絵で表現したりするなどして、子どもが思考・判断したことを表現することができるような指導の工夫が求められている。言語活動を充実させるために表現するのではなく、音楽科の目標達成のために言語活動を活用していくという視点が大切である。
- ・ 曲の特徴や〔共通事項〕にある要素・しくみに子どもが自ら気付く主体的な鑑賞活動が、思考力・判断力の育成につながる。そのために、自分の感じたことは曲のどんな特徴によるものかを子ども自身が見付けられるような教師の問いかけや授業展開を工夫することが大切である。
- ・ 速さ・強弱・リズムなど共通事項に関わる「音楽の言葉」を積み重ねていくことで、思考力・判断力が高まり、主体的な学習につながる。

(2) 表現活動との関わりについて

鑑賞で聴き取ったことを表現や音楽づくりで生かすなど、複数の領域分野を効果的に関連させて、両方の学習を充実させるとよい。そのためには、複数の領域分野を支える〔共通事項〕をしっかりとおさえることが必要である。評価を行う際は、全ての活動について行うのではなく、焦点化していくことが大切である。

(3) 教材研究と学習活動の工夫について

教師は、教材曲を聴きこんで音楽的なよさ・おもしろさなどを味わい、そのよさはどんな音楽的要素から生まれているのかを把握しておく必要がある。そして、どの子どもにも習得させたい表現や鑑賞のポイントを明確にし、どのような手立てを講じれば全ての子どもがそのよさや要素に気付くのかを捉えておかなければならない。

<研究主題>

仲間と豊かに関わり合い、音楽活動を楽しみ、自分の表現する喜びを味わう音楽づくり
～『川のイメージから音楽をつくろう』(第4学年)の実践～

1 提案内容

仲間と豊かに関わり合いながら、また、音楽活動を楽しみながら、自分を表現することの喜びを味わうことができる「音楽づくり」を目指し、そのプロセスやねらいへのアプローチの仕方を工夫し、試行錯誤しながら取り組む。第4学年の取組。

(1) 題材 鑑賞曲「田園」「川はよんでる」

(2) 題材の目標 短い音型を組み合わせたり、音楽を形づくっている要素を工夫したりしながら、友達と川をイメージした音楽をつくる。

(3) 授業の実際 (子どもたちの様子がビデオで紹介された)

第1時：川をイメージしてつくられた楽曲を聴いたり歌ったりして、雰囲気を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素に気付いたりする。

第2時：川のイメージを話し合い、イメージマップを作成する。

第3時：グループのイメージマップをもとに、音型をつくる。

第4時：ペアグループごとに聴き合い高め合う。

第5時：発表会を開き、つくった音楽を互いに聴き合う。

(4) 成果と課題

○成果

- ・グループ内で自由に意見や思い出を出し合い、楽譜に表したり、表現したりすることができた。
- ・他のグループと交流し、アドバイスし合うことで、イメージに合う音楽づくりができた。
- ・音楽のもと（〔共通事項〕）を活用し、演奏の仕方を工夫することができた。
- ・学習カードを改善し、活用することで子ども一人ひとりが明確なめあてや見通しをもって活動に取り組めた。また、教師が子どもたちの活動内容を把握することができた。

○課題

- ・聴き合いの観点から題材のねらいから外れないように言葉かけをしていく必要がある。
- ・普段から音楽のもと（〔共通事項〕）を意識し、表現したり、聴いたりするときの手掛かりとして定着させたい。
- ・一人ひとりの思いを十分に叶えるために、教師の的確な言葉かけや支援が必要である。
- ・6年間の連続性や発展性を見据えた低学年からの継続的な取組が必要である。

2 協議内容

(1) 授業の場の設定、楽器の分担

- ・グループの数5人×6グループ（リーダー：楽譜が読めて書ける子）自分たちで決める。
- ・楽器の数：少ない楽器は重ならないように、アドバイスを行った。自分でメロディーをつくるのが面白いので、メロディーを作ることができる楽器を選ぶようにアドバイスした。
- ・始めと終わりの支援：始め、中、終わりの声かけを行った。

(2) 2小節のメロディーを重ねていくことの意図

- ・四分の三拍子か四分の四拍子で、メロディー楽器を3つ以上、打楽器は2つ以下の条件を設けた。
- ・長さは2小節以上、長くてもよい。

(3) イメージマップから実際に音楽になっていく過程

- ・イメージマップ作成時に途中で楽器の音を確認しながら楽器探しを行った。

- ・常にイメージマップ・短冊・写真・作成した資料は、いつでも見られるようにした。
- ・今回は強弱、反復、重なりが多く見られ、旋律の変化は特になかった。

(4) 低学年（他学年）での取組

- ・教科書中心：リズム遊び、音の組み合わせを行う。朝の会のリズム回し、朝や帰りの歌を日常に取り入れている。

(5) 音楽づくりの具体的な実践など

- ・4年生の「おはやしをつくろう」の実践例：教科書のおはやしリズム・旋律づくりで、子どもたちの自由な音づくりをやりたいが、どのようにしたら楽しさを味わえるか悩んだ。曲想の表現で終わるのではなく、子どもたちの実態に合わせた取り決めをすることがとても大切だと思った。
- ・記譜の指導について：子どもたちなりの記譜を考えて書いていた。記譜で苦勞しないように、嫌いにならないようにした。子どもたち同士の教え合いでも書いていた。

3 助言内容

- ・音楽づくりと鑑賞との橋渡し：「情景、曲想の変化」と「要素」や「音楽の仕組み」とのかかわりを感じ取り、自分たちの音楽づくりのヒントとする。
- ・イメージが捉えやすい音楽選び、鑑賞曲と音楽づくりが直結できる曲選びが大切。
- ・イメージマップの大切さ。イメージと要素との結びつき。
- ・評価：プロセスをみる必要がある。高めていく姿を大切に。行動の様子、子ども相互の助言し合う様子、発言の様子を見ることが大切。
- ・適度な条件設定が子どもたちの自由な創造性が増す。
- ・先生自身がいろんな音楽のジャンルの窓口をもっていることが大切。
- ・川のイメージを作ろうといったとき、ストーリー性をもたせるとよい。
- ・口上を述べてから演奏していた。どんな川の表情ですか？との発表にすると、川のイメージから離れることはないを考える。
- ・最初は同じ楽器で演奏すると、自分・友達の思いや意図が分かり合える。
- ・ある程度のグループのざわざわ感ほむしろ大切にしたい。子どもに任せることと、仕切るところとどこにボーダーを引くかが大事である。
- ・音楽を構造的に聴くことができると、後々の音楽活動に繋がる。
- ・プレイミュージック：遊びの中に学びがあることに教師がひきつけることが大切。

4 まとめ

- ・小学校音楽科の教育課程実施上の課題と指導上の留意事項からの課題について
- ・子どもたちが思考・判断するような授業を目指してほしい。
- ・音楽を感性を働かせて聴く。〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、どのように表すかについて思いや意図をもち、歌唱・器楽・音楽づくりで表す。
- ・音楽の表現と鑑賞の学習を充実させるために、言語活動が大切であること。
- ・言語活動の中の絵や図などは描いたことによって、子どもが自分の解釈を確認できる、友達に伝えるツールになる。
- ・学習評価については子どもの姿、学習状況をAなのかBなのかを教師同士が話し合い、共通理解し、蓄積していくことが必要。ワークシートの工夫・開発が大切。
- ・小学校の年間指導計画を実際の子ども、地域、学校行事とのかかわりをみながら、今年の実績を来年につなげ、題材をどう構成するか、題材をどう配置するか、修正・改善して欲しい。